

世界初の高付加価値鉄道コンテナ

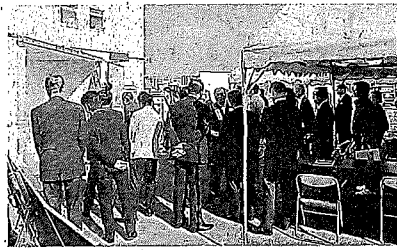
17年度から量産目指す

【福岡】JR貨物の全額出資子会社であるジェイアール貨物・南関東ロジスティクス(東京都品川区)と、日本事業者団体連合会(JBF)は、従来の鉄道コンテナの機能や付加価値をより高めた「リノベーションコンテナ」を共同開発・製作した。

試作機を完成させたのは、野菜などの食材の鮮



佐々木 社長



中でも氷感SO庫は「リノベ」の2種類。

「冷凍庫と蓄電池を搭載したコンテナは世界初」(JBFの大村幸市代表理事)という。今年度中に温度管理試験と安全性試験を実施し、17年度からの量産を目指す。

両者は鉄道貨物輸送用コンテナを活用した事業に関する業務提携契約を締結した。

完成したコンテナ試作機を紹介するため、全国各地4カ所でプレゼンテーションイベントを開催。このほど福岡市東区の福岡貨物ターミナル駅構内で実施した福岡会場は写真

には、共同製作会社をはじめ物流会社や農協関係者が参加した。いずれの製品も試作段階だが、今後は国土交通

省や農林水産省など国の補助金、銀行の融資を得ながら量産体制を整える方針だ。

氷感SO庫は「野菜生産団体などからの関心が非常に高い」(JR貨物・南関東ロジスティクスの佐々木淳社長)として、まずは1千個の生産を目指す。

JR貨物が所有するコンテナは約6万5千個あり、そのうち付加価値の高いコンテナは一部の事業者が所有する私有コンテナに限られる。

「高品質な状態で輸送したい潜在的需要は非常に高い」(佐々木社長)として、さらなる認知拡大と量産効果で普及拡大を目指す。